

降誕節第2主日(白)

新年礼拝

2026年1月4日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『いざわれら、主なる神に』 J. パッヘルベル
灯火入堂 アコライト：教会学校

招 詞 イザヤ書43章19節
賛 美 歌 教会福音讃美歌 505

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 ゼカリヤ書8章1～8節 (旧約1463頁)
ルカによる福音書2章41～52節 (新約 103頁)

子ども説教
交 読 詩 編 詩編89編1～15節 (104頁)

賛 美 歌 278
説 教 「神と人から恵みを受けて」 八木浩史牧師

祈 禱
賛 美 歌 287

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 28
祝 福
報 告 1月誕生者祝福
後 奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「神と人から恵みを受けて」

『ゼカリヤ書』は預言書であると共に、神の隠された計画を明らかにする「黙示文学」でもあります。14章からなるゼカリヤ書は前半(1～8章)と後半(9～14章)に区分され、前半を「第1ゼカリヤ」と呼び、神殿再建前の預言が書かれています。後半の「第2ゼカリヤ」は神殿再建後の預言です。本日の8章では、まだエルサレム神殿は再建途中です。しかしやがて主なる神が「エルサレムのただ中に」住まれ、神殿再建を完成させることをはじめとして、エルサレムを回復させられます。その時には、主の平和の内に、広場には年老いた男女が長寿のしるしである杖を持って集い、男女の子どもたちも共に戯れて遊び、安心して暮らすことができるようにしてくださるということです。

『ルカによる福音書』は、主イエスが12歳の時の出来事について記します。両親はガリラヤのナザレに住んでいましたが、逾越祭には毎年エルサレム神殿にやって来ていたのです。帰途で両親は主イエスを見失い、捜し周り、三日後に神殿の境内で見つけます。主イエスは教師たちに囲まれて、「話を聞いたり、質問したり」して学んでおられたのです。マリアが叱ると主は「私が自分の父の家にいるはずだということを、知らなかったのですか」と答えられます。主イエスの本当の父は、天の神なのです。しかし主は両親と共にナザレに帰られ、「両親にお仕えになった」のです。「仕える」ことは自発的な行動です。神に仕える主は両親にも仕えて、時が満ちるまで過ごされます。